

令和2年度
食料・農業・農村の動向

令和3年度
食料・農業・農村施策

第204回国会（常会）提出

本電子媒体（PDF）は原本と相違ない。

令和3年5月25日
農林水産省大臣官房

この文書は、食料・農業・農村基本法（平成11年法律第106号）第14条第1項の規定に基づく令和2年度の食料・農業・農村の動向及び講じた施策並びに同条第2項の規定に基づく令和3年度において講じようとする食料・農業・農村施策について報告を行うものである。

(事例) 半農半Xの事例

(半農半蔵人 島根県邑南町)

島根県邑南町の沼田高志さんは、出身地の兵庫県の民間企業に勤務していましたが、東日本大震災をきっかけに就農を決意し、平成24(2012)年に島根県の半農半X支援事業を活用する形で営農を開始しました。沼田さんは、夏期は45aの農地で酒米と野菜を栽培し、冬季は地域の酒蔵に勤務する「半農半蔵人」を行っています。

酒蔵は雇用を人手が必要となる冬季のみとすることで人件費を抑えられているほか、酒蔵の勤務によって沼田さん自身も農閑期の収入を確保できています。沼田さんは「自分で育てた酒米で日本酒を造ることもでき、2つの仕事を両立するスタイルにやりがいを感じる」と話しています。



半農半Xの実践者(農業と酒蔵での勤務)

資料：島根県



(半農半民宿 徳島県勝浦町)

徳島県勝浦町の石川翔さんと美緒さんは、東京都の民間企業に勤務していましたが、移住相談会で後継ぎのいないみかん農家の事業継承の提案を受けたことから、平成28(2016)年に移住、40aの農地で営農を開始しました。就農直後から農業次世代人材投資資金の交付を受けていましたが、交付期間の終了後には、自宅を改修して民宿や古本屋の経営等を開始し、農業以外で約100万円の収入を確保しています。石川さんは「今後は、農業以外の収入を維持しつつ、経営を安定させるため農地を拡大していきたい」と話しています。



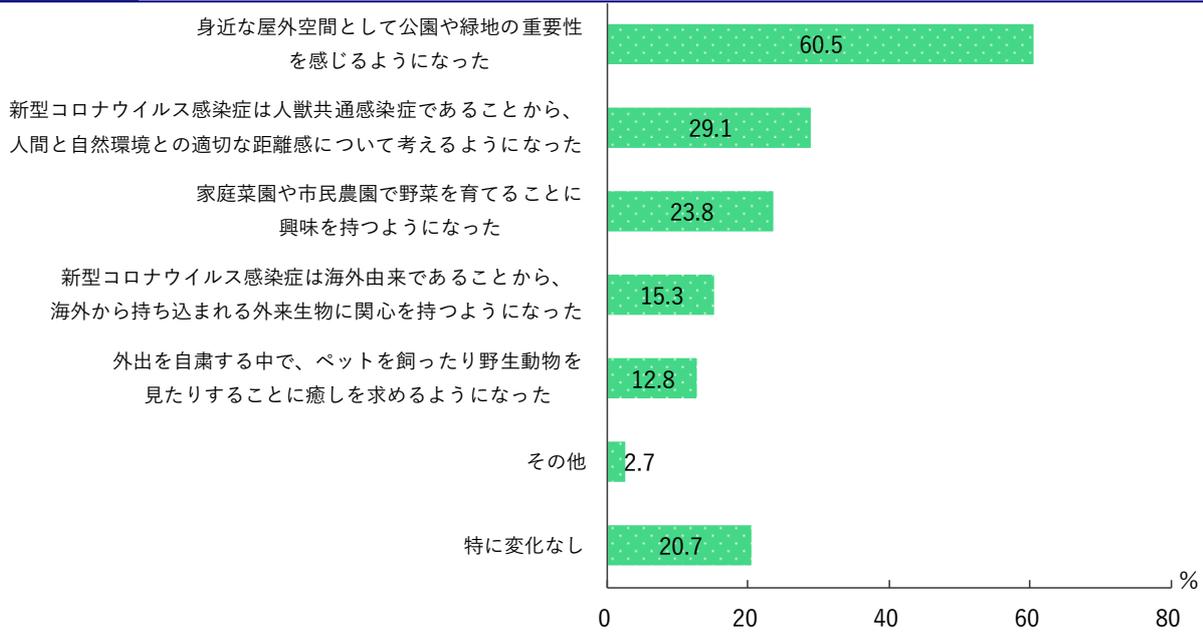
半農半Xの実践者(半農半民宿)

資料：みかん農家の宿あおとくる(徳島県)

(市民農園や家庭菜園への関心が増加)

令和2(2020)年9～10月に東京都が行った調査によると、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、都市において公園や緑地の重要性を感じるようになったと回答した人が6割にのぼり、家庭菜園や市民農園で野菜を育てることに興味を持つようになったという人も2割を超えています(図表 特-45)。

図表 特-45 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う自然環境に関する意識の変化(複数回答)



資料：東京都「令和2年度インターネット都政モニターアンケート「生物多様性について」調査結果」(令和2(2020)年11月公表)を基に農林水産省作成

注：18歳以上の都内在住者を対象として実施したインターネットによるアンケート調査(回答総数484)

実際に、市民農園の利用は増えており、首都圏と関西の都市部で貸し農園を展開している株式会社アグリメディアによると、運営する98の農園全体で、令和2(2020)年4月の来園者数は同年2月に比べて8割増加しました。

また、家庭菜園についても、株式会社サカタのタネによれば、家庭菜園用のキットや種子、苗等の売上げが令和2(2020)年6月以降、前年比で1割程度増加しているなど、これまで家庭菜園に取り組んでこなかった消費者の関心が高まっていることがうかがえます。



園芸店店頭の初心者向けコーナー

資料：株式会社サカタのタネ

(4) 農林水産業・食品産業関係における対応

農林水産省は、感染症の拡大の影響を受け、国民への食料の安定供給を確保する観点から、緊急経済対策等において、各般の措置を実施しました。

ア 緊急経済対策等の実施

(ア) 農林漁業者等の経営継続支援

(畜産農家の経営改善等を支援)

枝肉価格の低下による畜産農家の経営悪化への懸念に対応するため、畜産農家等が行う経営の体質強化に資する取組や、コスト低減等の取組を支援し、畜産物の生産継続や安定的な供給を図りました。

また、脱脂粉乳やバター在庫の増加により生乳の需給調整が困難となる懸念に対応するため、在庫が高水準にある脱脂粉乳やバターを需要がある分野で活用する取組を支援し、